☆創作　低・中学年向け作品

かいけつゾロリ V.S. 共感する物語

千代原　真智子

1．一番人気はやはり「かいけつゾロリ」

公共図書館の子どもの本のベストリーダーの統計では、毎年このシリーズが上位を独占している状況が続いている。一九八七年に出版されてから長きに渡り、愛読者が低学年から高学年までという幅広い読者層に支持されている所以もある。一九八七年以降の貸し出し回数の累計を見ると1冊ずつのどれもが三五〇〇回ほど借りられている。ちなみに当方の図書館では二〇冊ほどの複本で対応している。二〇〇八年出版の『かいけつゾロリ カレーVS・ちょうのうりょく』、『かいけつゾロリ イシシ、ノシシ大ピンチ』（原ゆたか作　ポプラ社）も順調な滑り出しを見せている。那須正幹の「ズッコケシリーズ」にも通じるが現代の子どもたちの関心、いや、人間の欲望と言ってもいいがそれらをキャッチする感性が大衆読み物の人気の鍵をにぎっているようだ。ラーメン、カレー、お金、ゲーム、異性など現実的なあこがれや、タイトルに多く使われている〝なぞ〟、〝きょうふ〟、〝大さくせん〟など、危機感に身を置きたい願望もあるようだ。しかし、現代っ子好みのハラハラドキドキ感は、手軽に短時間で楽しめるテレビ感覚のようだ。イノシシとキツネという擬人化も傍観者として見られる安心感があるのだろう。

2．シリーズの安定路線

「かいけつゾロリシリーズ」を筆頭に、女の子に人気の「まじょ子シリーズ」（藤真知子作　ポプラ社）も然り、継続的に出版されている作品も多い。〝な行〟から〝や行〟までが出版された「あいうえおパラダイスシリーズ」（二ノ宮由紀子作　理論社）は、グレイドを問わず楽しむことができる。『1ねん1くみ1ばんジャンプ！』（後藤竜二作　ポプラ社）が出版されるとともに「3年1組ものがたりシリーズ」（後藤竜二作　新日本出版社）がはじまった。「1年1組シリーズ」第二段というところ。四月始業式から、三年一組の新任、風森先生が遅刻をしてくるというセンセーショナルな登場の仕方、先生の自由な考え方にもシリーズに期待をもたせられる。『鬼灯先生がふたりいる!?』（富安陽子作　ポプラ社）世界でただひとりのおばけ科のお医者さんに双子